【様式１】

令和７年　３月２７日

令和７年度　特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
上尾市立平方北小学校	上尾市教育委員会	公立

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立平方北小学校ウェブサイト 令和６年度特別の教育課程の自己評価結果について http:///site/hirakatakita-elementaryschool/390955.html
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立平方北小学校ウェブサイト 令和６年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について http:///site/hirakatakita-elementaryschool/390958.html
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立平方北小学校ウェブサイト 令和６年度特別の教育課程の保護者評価結果について http:///site/hirakatakita-elementaryschool/390962.html

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

本市では、これまでＡＬＴの配置や、各校のカリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週２９コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成３０年度から、小学校３・４学年で３５時間を、小学校５・６学年で７０時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校１・２年生においては、学校教育法施行規則第５１条に定められる授業時数以外で、年間１０時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童とＡＬＴが自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的にＡＬＴと触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

ア　小学校１・２学年において、１年生は年間３４時間、２年生は年間３５時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。

イ　本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。

ア　小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

（３）特例の適用開始日
令和６年４月１日

（４）取組の期間
無期限

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

（・計画通り実施できている）
・一部、計画通り実施できていない
・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

・４５分授業ではＡＬＴと連携し、「触れよう・慣れよう・慣れ親しもう」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
・校内研修を年２回実施し、教員の英語力や英語指導力の向上に努めた。
・歌やチャンツ、ゲームなどを通して、全ての児童が英語で表現することの楽しさを味わえるようにした。
・児童がコミュニケーション活動する時間を多く設けて、コミュニケーション能力の育成に努めた。
・常時活動として Daily Question を朝の会で行ったり給食時間に献立内容を英語で放送したりして、日常的に英語に触れる機会を作っている。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

（・実施している）
・実施していない

＜特記事項＞

・学校運営協議会で、英語活動の授業参観を行った。
・学校だより、ホームページ等を活用して、英語活動の様子を積極的に情報発信した。
・学校公開日に英語活動の授業を保護者や地域の方に公開した。

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中９年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校の「令和５年度特別の教育課程の実施（１・２学年英語活動）に係る評価」を分析すると、「本校は積極的に英語活動を推進している」の項目で「よく思う」「そう思う」と回答した保護者が９０．５％、学校関係者評価委員会では１００％であり、本

校の英語活動が保護者や地域から高い評価を得ることができていた。

また、「お子様は、学校の英語活動の様子について話している」の項目で「よく思う」「そう思う」と回答した保護者が７３％、「お子様は、ご家庭で時々英語を使って話そうとしている」の項目で「よく思う」「そう思う」と回答した保護者が５９％、「お子様は、日本や外国の文化に興味・感心を示している」の項目で「良く思う」「そう思う」と回答した保護者が６４％と昨年同様の高い評価を得られた。本校での実践が生活に結びつき、家庭にも浸透してきていると考えられる。

さらに、常時活動の Daily Question を続けていることから日常の中で英語が使用されることが自然な状態となり、手紙を配付するときに「〇〇（枚数）please.」と言ったり、友達に対して「Thank you.」「You are Welcome.」と会話したりする様子が見られたりした。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ＡＬＴが週に４日間配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの生きた英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化に触れたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育めている。

また、ＡＬＴの問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図ることができていた。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、互いの考えや気持ちを伝え合うことができる児童が増えているとともに、コミュニケーション能力が着実に育成できており、特例校の取組の効果が表れている。

さらに、校内放送や校内の掲示物にも英語の表現を取り入れたり、英語の読み聞かせを行ったりして、より身近により楽しく英語にふれる機会を設けている。英語の歌を積極的に取り入れることで、休み時間に口ずさむなど、日常生活の中で、児童の英語を耳にすることが多くなった。また、担任と子供たちのやりとりを英語で行うなど、英語を使う場面も多くなってきている。

一方で、まだ語彙の獲得や英語の表現を使うことに苦手意識を感じている児童もいる。低学年の段階から、楽しく活動する中で、少しずつ「表現できた」という経験を積み重ねていくことを今後も継続し、苦手意識を減らして、中学年からの外国語活動、高学年の外国語につなげていく。

５．課題の改善のための取組の方向性

４に示すような課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要である。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導案例及び教材の活用、また、市教委主催の研修を活用しながら、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を推進していく。